

# 復興二年目

## 天満天神えびす祭

昨年一月に「天満天神えびす祭」

を斎行しましたところ、多くの皆様にお参りいただきました。

約半世紀ぶりの復活ということも

あり、何かと準備不足、ご迷惑をおかけしたことも多々あったかと存じますが、年を重ねるごとに、江戸時代の賑わいを取り戻せるように、担当者一同、知恵を絞って準備しております。本年は左記の次第で執り行います。

### 「御神酒笑姿」の絵馬

復興二年目となります本年は、江戸時代後期の寛政年間に評判をとった「御神酒笑姿」にちなんで、山本兆揚画伯の揮毫になる「絵馬」を謹製し、笹に付けていただく縁起物として授与させていただきます。絵馬の裏に記された解説文を以下に引用しておきましょう。

#### 御神酒笑姿(えみす)の由来

江戸時代の当宮では、毎年正月・五月・九月の十日に「蛭見尊遷殿神事」が斎行され、「十日えびす」の参拝で賑わいました。

なかでも寛政期(一七八九〜一八〇一)には、御神酒をお供えすると

御顔が紅色に染まったという「御神酒笑姿」の御神像が評判を呼び、境内は参詣人であふれたと記録されています。

物は授与いたします。

実は、これに先立つ宝暦十年(一

七六〇)に、高松藩の平賀源内が当宮の社家・渡辺主税を訪ねています。源内は、「御神酒天神」と考案したことで知られていますから、当宮の「御神酒笑姿」にも、源内が関わっていた可能性が指摘されています。

大阪天満宮

### 「戒門の由来」を建碑

また、「えびす祭」の復興を記念して。当宮の戒門(西門)には、その由来を記した石碑を建てました。

平成二十年正月吉日

宮司 寺井種伯

江戸時代には「十日えびす」だけではなく、日々の蛭見社参拝には、当門を利用する習慣がありました。ぜひ今年の「えびす祭」には、戒門から参拝下さい。

#### えびす 蛭子門の由来

当宮には六つの門があり、それぞれに独自の用途と由来を持っている。当門は、入って

すぐ左手に「戎社(蛭見社)」が祀られていたことから「戒門」と呼ばれてきた。

江戸時代の「戎社」では、毎年正月・五月・九月の十日に「蛭見尊



奉納 株式会社アップライフ 有限会社アドミ

代表取締役社長 大本 潔